国際日本学シンポジウム

大学院人間文化研究科　教授
平　野　由紀子

Q、「新しい日本学の構築」のテーマはⅠⅡⅢと回を重ねてきたそうですが、どんな人たちが参加なさるのですか。

A、二〇〇一年七月（Ⅲ）は延べ約四〇〇人の参加者でした。毎回、猛暑の七月に開催しています。第一回は、まだ冷房のない教室でしたので、倒れる人が出たらどうしよう、と心配でした。「海の日」の前の週末に固定したのは、帰国した留学生を始め、卒業生が集まれるようにとの配慮です。

Ⅲの例ですと、分科会「アジアにおける日本研究」「道行と音楽」「都市祝祭の国際比較」など六つ、一般に公開された特別企画は「多言語・多文化共生社会とバイリンガル教育」。これまでの講演には、アン・ウォルソール（カリフォルニア大学）「日本の比較史 ― 大奥の場合 ―」（Ⅰ）、ダビット・ラブス（カレル大学）「漢チェコ辞典の完成」、ヴォルフガング・シャモニ（ハイデルベルグ大学）「なぜ外国で日本文学を研究するのか」、外山滋比古（本学名誉教授）「外国からの方がよく見える」（以上Ⅱ）など。

報告書への礼状を一つ ― 「どうしても狭くなりがちな視野をぐっと広げるようなご本を頂戴し嬉しく存じます。「国際」と「新しい」という字義通りのシンポジウムを開催できる貴学の学生のみなさんを本当に羨ましく思います。」

Q、どこが新しいのですか？

A、多岐に渡る分野とテーマを持つ日本学の研究は、従来国際的交流が乏しいまま各国で個別に行われてきました。日本においても同様です。本学では、一九九九年に文学・歴史・地理・音楽・美術・舞踊・服飾・日本語教育の研究者が集まり、国際日本学専攻が、新設されました。学際性を特色とする博士課程が発足して二〇年以上になりますが、その蓄積の上に成立したものと言えます。日本と海外の日本学とのネットワーク作りの拠点を目指します。二〇〇〇年（Ⅱ）に伊藤謝恩財団の助成を与えられたのもそこを評価されたのです。

Q、次のシンポジウムはどのようなものを予定していますか？

A、今年のテーマは〈国際〉日本学との邂逅

Encountering Japanese Studies Abroad です。

日本の宗教・日本の恋歌を中心に分科会を開きます。また、アメリカの若手女性研究者を迎え、日本文学に描かれる女性像についてパネル・ディスカッションを計画しています。今までと同様、全て日本語でします。

Q、おもしろそうですね。どのようにして参加できますか？

A、二〇〇二年七月一三（土）・一四日（日）に予定。六月上旬よりプログラムと申込用紙を配布しますので、人間文化研究科の助手室（電話　〇三―五九七八―五八二三、FAX　〇三―五九七八―五八九六）までご連絡下さい。また、ホームページ：http://www.ocha.ac.jp/~gradu/sympo/index.html 上でも御覧になれます。